

「いいじゃないですか」の励まし

木下 武男

佐方さんは私が研究者として独自の道を歩むうえで、それを励まし、支えとなっていた方でした。一九八〇年代の頃、佐方さんは故中林賢二郎先生の書籍や、先生が関わっていた大原社会問題研究所の仕事を手伝っておられました。私も、指導教授は違いますが、先生の労働組合論の影響を強く受けていました。

中林先生はその晩年、私に告げられたことですが、これまでの労働運動研究の仲間とは一線を画し、独自の主張をしたいと思っておられました。それは労働運動研究の大勢に抗う方向でした。その先生が急逝され、私は先生の追悼文に「寂寥たる雪原に立つ思いです」と書きました。

その思いは現実のものとなり、私の主張は荒野に叫ぶが如くでした。その頃、佐方さんは、お会いするたびにこう励ましてくれました。「いいじゃないですか。中林先生の

後を継いでいるんだから。思うようにやればいいんですよ」。にやりと笑い、目を細められました。

その後、研究者として独り立ちしてからも、お会いすると、同じような言葉をいつもかけていただきました。ずーと私の背中を遠くから見つめておられるような、そんな励ましを感じてきました。いまでも「いいじゃないですか」の言葉を忘れることはありません。ありがとうございます。

ご冥福をお祈り申し上げます。

（労働社会学者・元昭和女子大学教授）